留学レポート 1　2026.9.17
l235027　法文学部社会文化学科
塩谷あき

　ブラジルのサンパウロ大学に 8 月から留学しています。12 月まで。

◯一日の流れ
　7 時半起床、11 時まで授業の予習をして、学校に向かう。電車で 1 時間降りて歩いて 30 分かかる。昼、食堂でごはんを食べる。14 時から 18 時まで授業。また食堂でごはんを食べる。電車に乗って帰って、11 時くらいに寝る。

◯授業
　現代人類学、先住民民俗誌、黒人運動史をとっている。授業によるが、私が取っている授業はすべて 14 時から 18 時まで 4 時間続けて行われる。内容のレベルが高く、専門用語が多いためついていくだけで必死だが、受けられてうれしい。面白い。
　先住民民俗誌の授業では、アマゾンでのフィールドワークをもとにした理論を扱っており、ブラジルならではの人類学を学ぶことができて満足している。難しいけど。
　授業でできた友達とご飯を食べながら話をするのもうれしい。楽しい。

◯大学
　広い。370ha ある。（島根大学 19 個分）カピバラがいる。いったいどこからどこまでがキャンパスなのかわからない。学部ごとに図書館があり、ほぼ学問ごとに建物がある。天気が良ければ、「vamos sentar a grama(芝生に座ろう)」と言って、おしゃべりしている様子をよく見かける。生徒はバスで移動する。
　食堂はキャンパス内に 7 つあり、いずれも 1 食 2 reais(60 円くらい)である。食堂では一種類か 2 種類の食事が用意されている。学生たちはアプリでメニューをチェックして選んで向かう。主に米、豆の煮たやつ、肉（牛、豚、ヤギ)、生野菜（白菜かレタス)、フルーツ（バナナかマンゴーかりんご)、パンが置かれいる。肉以外食べ放題♡
　映画館、美術館、運動場、コート、プールなども無料で利用できる。クラブ活動が学部毎にあり、私は友達に誘われて数学学部のソフトボール部の練習に参加している。一番苦手なスポーツを苦手な学問の人たちと地球の反対側でするとは思わなかった。




写真右・左　食堂にて




写真左・ブラジル人の友達と中国人（ポル語しゃべらない）の友達。英語で会話（したかったけどほぼエヴリシングオーケーしか言っていなかった。）。
写真右・友達 Ana と Melissa。二人とも数学専攻。授業サボり中。

◯Sao Paulo

今まで住んだ中で一番大きい都市だ。サンパウロ市は人口 1200 万人で、東京都２３区とほぼ同等である。エスカレータでは右側が止まっている人用で、左側を歩く人用で分かれている。左側で止まると怒られる。忙しい街である。

夜９時以降はなるべく出歩かないようにしているが、一度１１時に駅から歩いて帰ったところ、いつもと雰囲気が違っていて、とても怖かった。気をつけようと思う。

朝電車に乗れば満員電車だし、満員でなければ行商人が傘や菓子や充電器やイヤホンや靴下やおもちゃや絵本を売っている。中心部の地下鉄に乗れば楽器の演奏をしている。元気な街だ。留学初期は雰囲気に押されていたが、いまでは愛着がある。Eu♡Sao Paulo




ピンエイロ（サンパウロ中心部）にて



地下鉄内でのヴァイオリンの演奏。いろいろうまくいかない日だったので染みた。

◯推奨

外国人は RNM という外国人登録証がないと口座が作れない。口座が作れないと PIX（ペいぺい的なやつ）が使えない。わたしは日本のクレジットカードしか持ってきていないので、高速バスをネットで予約できなかったり、携帯のモバイル通信のチャージができなかったりする。留学を考えているそこのあなた、インターナショナルのカードがあるといいですよ（wise とか）。

◯家

2月に出雲で知り合ったブラジル人のお家に居候させていただいている。ときどきなぜこの家にいるのかなと思う。ブラジル人の方の息子二人と、ピットブル一匹と暮らしている。家に帰ったら誰かいて、たまに作った料理をくれたり、自分の作った料理を食べてくれたりするのは本当にありがたいことである。私はこの家が好きだ。感謝を忘れず、一緒に過ごす時間を大切にしたい。今度みんなで餃子を作りたい。





写真左・ホストブラザーYuki 。写真右・二人と一匹

◯フィールドワーク

9月の上旬に一週間の休暇があったため、ブラジルの一番南に位置するリオ・グランデ・ド・スル州（以下 RS）に調査に行ってきた。RS にはガウショとよばれる牧畜文化があり、クリオーロという品種がいる。もともとスペイン人ポルトガル人がヨーロッパから持ち込み野生化し、その後先住民や移民が牧畜に利用した。いまでは大多数のクリオーロはスポーツに使われている。

8月の中旬にガウショの協会の方にメールを送り、受け入れ先を紹介してもらった。1週間のうちに 4 つの牧場を周り、話をきいた。人によっては方言が強く聴き取るのが難しかったが飼養方法から普段の生活のこと、政府への意見まで聞くことができ有意義な一週間だった。そのうちなにかの形でまとめたいと思う。

サンパウロに帰ってきたら、まだ一ヶ月ほどしか住んでいないのにもうホームのように感じて安心した。これからも都市と田舎を往復して、ブラジルの理解に努めたい。



写真左・乗っけてもらった。

写真右・Samuel と Daniel。これから投げ縄の競技にでるところ。



写真右・左　シュラスコはガウショが発祥。Rodeo（ロデオ）にはシュラスコがつきもの。夜になるとみんな焼き始める。右の写真のシュラスコは 2 日間焼き続けるらしい。





写真右・左　Expointer という 1 年に一回の農業展示会に行った。牛・馬・羊・ヤギ・ウサギ・鶏・農業機械の展示や、たくさんの出店があった。日本では考えられない規模だった。



ホルスタインから




バッファロー、和牛まで。他にもインド原産の肉用セブ牛などあらゆる牛がいた。